

へど、櫻花盛りのころ長美しよつてさくらだいと稱ふ種類まげしるびすたい暗紫色なりくちみだい常のたいに比ぶればその口尖る又くだいかんだいへだい小正だいままだい又石だいともしふすじだいはなをれたい等みな味ひ劣れり

〔浪花の風〕魚類は江戸よりも澤山なり味ひは其種類によりて甲乙あり鯛杯名物ゆる西宮の邊にて漁せしもの味ひよろし

〔攝陽群談十六名物土産〕櫻鯛 住吉郡境浦ニアリ夫木集和泉國ニ比ス今攝泉ニ懸テ網之春ヨリ夏ニ至リ多ク捕得ルヲ以テ世ニ號之事非也當浦ノ鯛厚味ニシテ鱗ノ櫻色成ニ因テ號タルノ所傳タリ

〔雲州消息中本〕所給枝柿甘於蜜房人丸之姓知有所以乎况櫻鯛柳鯖可具春遊三種之物千金還輕某謹言

乃刻

右京大夫藤原

大藏卿匡房

〔詞花和歌集九雜〕花を、しむ心をよめる  
春くればあちかたのうみ一かたにうくてふいをの名こそをしけれ

〔八代集抄詞花集九〕春くればあちかたの 櫻魚なるべし○中略 櫻咲比鯛數不知浮び寄を取を

櫻鯛と云也

〔赤染衛門集〕梅の花にかざして人のおこせたりしに香のわろかりしかば、  
春ごとに櫻たひとぞき、しかど梅をかざせるかぞつきにける

〔橋庵漫筆二〕攝南今宮村は、往古は御厨子所へ日々供御の料の魚調進の處なり由緒有ところに、現在も諸役御免なり然る例によつて今に不絶正月十三日には、上御所院御所執柄家へ大鯛を獻上す、村長差添、兩人大紋を著し參内す、事濟て京兆尹兩御奉行所へ御禮を遂て歸村す、此一